

市議団ニュース

久喜市には157項目の要望提出 国には福祉・平和など48項目

日本共産党
久喜市議団
久喜市委員会

予算要望書を提出しました

10月29日 日本共産党久喜市委員会と同市議団は2014年度の予算要望書を田中喧二久喜市長あてに提出しました。当日は共産党久喜市委員の各地域の代表4名と久喜市議団4名が参加しました。

今回の予算要望書は9分野205項目にわたる内容で意見・要望が集約されています。今回も前年度の項目をすべて見直し、市からの要望書の回答も検討したうえ、地域からの意見・要望を取り入れていきます。



来年度の予算要望書を手渡す議員団と久喜市委員会の参加者



学校給食は自校方式をすべての学校にひろげよう

要望書では、とくにこれまでの合併後の久喜市政が本当に市民、住民にとって「住民サービスが向上したのか。住民負担が軽減したのか」また、これまでの住民要望がどのように実現できたのかなど、検証しまとめあげました。

市長への提出当日、各地域の市委員会のメンバーからは「市の公共交通対策はパブリックコメントをしっかりと反映して作るべきだった」「市内全校の自校給食化を進めてほしい」「平和都市宣言には非核三原則をもちこむべき」「菖蒲地域には駅がなく各地域にける交通網を整備してほしい」「栗橋の液状化対策を成功させ、元の南栗橋に復興するようがんばってほしい」「住宅リフォーム制度を早く条例化してほしい」「国保税を引き下げるべき」など要望しました。

市長は「困っている人にどう手を差し伸べるかが政治の仕事だ、限られた財源の中で出来るだけ応えたい。」と述べました。

「主な要望項目」

- *生活保護基準引き下げによる減額を市が補てんすること。
- *消費税増税は市民の暮らしも経済も壊す。増税の中止、白紙撤回を国に求めること。
- *年金の2.5%引き下げとマクロ経済スライドは導入しないこと。
- *負担の大きい介護保険料は引き下げして高齢者の負担軽減をはかること。
- *国民保険税は払える税額にし、一般会計からの繰り入れを増額し、高い税額の引下げをおこなうこと。
- *若い世代の定住促進の観点から、子ども医療費無料化の年齢を、入通院とも18歳までの拡大を実施すること。
- *深刻な自然災害の被害程度に応じた市の独自支援策を策定すること。
- *市の公共交通政策は、交通弱者の利便性向上を最優先に位置づけること。デマンドバスは循環バス運行地域内及び他のエリア内への乗り入れを可能とすること。
- *全国学力テストには参加しないこと。参加した場合でも県内順位市内学校間の順位などの結果は、いかなるものに対しても公表しないこと。
- *住宅リフォーム助成制度の実施を
- *農業集落排水使用料については引き下げの検討をすること。
- *非核平和都市宣言を行い、比較3原則の法制化を国に求めていくこと。
- *現行憲法については、堅持を貫くこと。
- *東日本大震災復興交付金に基づく液状化対策事業を成功させ、南栗橋地域が完全復興するよう努力すること。など

自宅前から乗車し 目的地まで走る デマンド交通が運行開始しました



車両はリフト付き車両と、セダンの車両がそれぞれの地域で1台ずつ、合計4台で運行します。リフトには、車椅子に座ったまま乗車できます。

目的地には、乗車場所がわかるような「看板」を可能な限り立てるとのことです。

予約は30分前、7時から16時30分のあいだで30分前まで、行く時に帰りの予約も同時にできます。電話を携帯に登録しておくと思えます。デマンド交通予約センターは0480-53-6142です。ご利用ください。



車いす用のリフトを装備している。このワゴンタイプとセダンタイプの2台が各エリアに配備される。



デマンドバスの乗降場所の標識

10月21日現在、約千人の方から利用申請があり、22日のスタートする日には栗橋・鷺宮地域で22件、菖蒲地域で2件の予約が入っているとのことです。

自宅玄関口から目的地まで走るデマンドバスが10月22日スタートしました。

利用するには、事前に登録し、利用の際は、電話にて予約します。自宅前まで迎えに来る乗車時間と、目的地到着時間の予定を知ることができます。試乗してわかったことは、

運転ルートは「システム」によって自動的に決まり、運転席の前にある「ナビ」にルートが示されることがわかりました。

鷺宮地域の被害が深刻！

大雨に強い街づくりを



動けなくなった車。鷺宮支所の職員も応援に。間一髪だった。

わし宮団地内の冠水状態 (銀の笛幼稚園まえ)



鷺宮神社うらの「かぐら橋」付近満水の青毛堀川



清久工業団地南側入口付近の道路が冠水

10月16日未明から、台風26号が関東地方を直撃した。強風とともに雨量が多く、心配された箇所冠水被害が出てしまった。

これまで長年にわたり、議会で改善を求めてきたことで、ポンプの設置や、かさ上げの効果は見られた。しかし、それ以上に全体の雨量の総量が多く、青毛堀川が満水の状態とあっては、排水が期待通りに進まなかった。今回の被害で課題もあきらかになった。それは、

- ①合併で鷺宮総合支所の職員減で対策要員が減少したこと。
- ②用排水路の浚渫が遅れており、道路冠水を招いている。
- ③開発行政が進められ、本来土中に浸透させるべき雨水が水路に放流される一方になっている。
- ④下流の自治体とも広域で対応する必要があるのである。

利根川栗橋流域水防事務組合 平成24年度決算議会報告

利根川栗橋流域水防事務組合は、久喜市・五霞町・幸手市・杉戸町・春日部市で構成され、年間合計700万円の負担金を出し合い、水害を防ぎ、被害軽減にむけ、日常から訓練するなど取り組んでいます。

訓練参加者は333名、水防計画、第二次出動段階では199名の出動を決めています。実際には、水防団員は交代しながら警戒や防水対策にのぞむことから、199名で水防体制が構築できるものではありません。

決算内容は、「警戒水位」を超える増水がない状況でしたが、7,039,000円の支出でした。負担金を超えた分は、繰越金や基金で賄っています。最近では予期し得ない水害が全国で起きています。いざという時の為に水防体制づくりはかせません。



キャサリン台風の際の洪水被害の様子